

立教大学
観光学部
交流文化学科

舂谷ゼミ

1 立教大学観光学部交流文化学科の観光文学研究

立教大学の観光文学研究と教育については、『立教大学観光学部紀要』16号(2014)に「観光教育と文学研究 交流文化学科での実践から」としてまとめられたが、本学部は周知の通り日本初の観光学部として2018年度に20周年を迎えた。開設以来の観光学科に交流文化学科を加えた2006年は、奇しくもJTB交流文化賞が「地域に根

観光ツーリズム、ホスピタリティ

このいずれかの言葉を冠する学部・学科を有する

日本の大学は44校、大学院が9校(2018年度)あります。

「観光立国」のこれからを支えていくであろう彼らが

何に関心を持ち、

学び、感じ、研究しているのか。

“ゼミ”という窓を通して覗いてみたいと思います。

第2回は立教大学「舂谷ゼミ」。3つのアワードの実施という、

ユニークな取組を舂谷先生に紹介していただきます。

ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出、地域の活性化に寄与することを目的」として創設された2005年と相前後している。

観光学科が経営系の科目を配すのに対し、交流文化学科は必修に準ずる学科選択科目1(2016年度以降入学者カリキュラム、以下同じ)に「交流文化研究」1から4として、「地理学の方

法」「文化人類学の方法」「社会学の方法」および「交流文学の方法」と「交流文学論」「旅行経験分析法」「言説分析」、それらに次ぐ「学科選択科目2」には「紀行文学論」「言語と社会」「トラベルジャーナリズム論」「トラベルライティング」等の文学関連科目が含まれている。学科完成年度の2009年度以降の卒業論文、修士論文、博士論文を見て

も、観光文学研究と見なされる研究課題は、地域振興要素の強いコンテンツツーリズム研究を除いても少なくない。

2 トラベルライティングとは何か

旅行記や紀行文ということばに加え「トラベルライティング」というカタカナ表記を目にすることがある。いずれも旅をテーマにしたノンフィクションのエッセイを示すが、『ガリバー旅行記』『ロビンソンクルソー』の例を見るまでもなく、フィクション性を完全に払拭するのは困難だ。もともと「Travel Writing」は英語では一般的な用語で、書店の棚の分類でもある。英語では旅のテキストを表す。「Travel Writing」ということばは、狭義には一人称の自伝、回想の一部としてガイドブックなどを含めないが、広義にはガイドブックばかりでなく、旅の行程、テーマのフィクション、回想録場所の記述、自然の描写、行跡地図、旅テーマのフィルムなどを含む(窪田憲子ら編著2016)。旅にとり憑かれたイギリス人、トラヴェルライティングを読む ミネルヴァ書房。各種辞書に

